「認知症の方のご家族を対象とした身体疾患に対する医療の実態調査」の分析報告

「丁寧な説明」「入院に伴う身体機能の低下」などが課題

―改善の方向にはあるものの、なおいっそうの配慮が必要

「家族の会」調査・研究専門委員　鈴木　和代

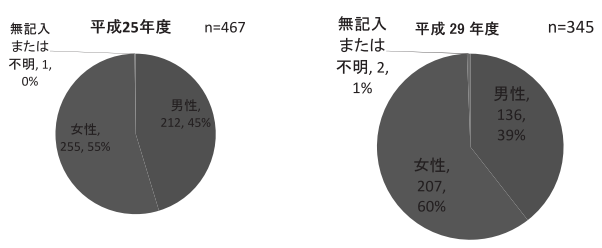
急な病気やけがで、認知症の人が予定外に医療機関を受診した時に、医療機関に診察や入院を拒否されたという話を耳にすることは珍しくありません。しかし、認知症の人が実際に、どのような対応を受けているのかについて、これまで詳しい調査はありませんでした。

そこで、国立長寿医療研究センターの武田章敬医師が研究代表者となって、認知症の人が急な病気やけがで受診した際の実態について、「家族の会」の調査・研究専門委員も研究分担者に入り、調査を実施しました。会員の皆さんにご協力を得て実施したアンケートが、この研究の重要な資料となり社会に還元されることになりました。

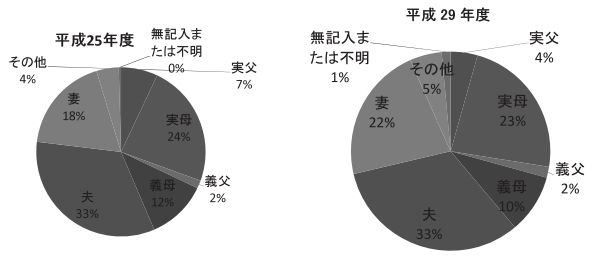
今回の調査の流れと目的

まず、平成25年度に「認知症の方のご家族を対象とした身体疾患に対する医療の実態調査」（１回目の調査）アンケートを実施しました。

その後、１回目のアンケート結果では詳しく分からなかったことを明らかにするため、６名の介護家族の方にインタビューをさせていただき、受診するまで、受診、入院から退院までなどの経験を詳しく調査しました。引き続き、平成27年度から平成29年度にかけて医療の実態に関する研究を継続し、その中で今回の実態調査アンケートを実施しました（２回目の調査）。調査の１回目と２回目の期間が４年間空いており、その間に認知症の人に対する医療機関の対応に変化があったのかを把握することが今回の調査の大きな目的でした。



〈図１〉認知症の人の性別



〈図２〉回答者からみた認知症の人との続柄

2018 ● JUNE

CONTENTS

●「認知症の方のご家族を対象とした身体疾患に対する医療の実態調査」の分析報告
「家族の会」調査・研究専門委員　鈴木和代 ……2–3
●実りある人生を「家族の会」とともに
「本人も家族も仲間も一緒に楽しむ」がモットー　勝田登志子 ..4–5
●「認知症関係当事者・支援者連絡会議」始動！ 4–5
●本人登場 私らしく仲間とともに (153)
長崎県支部　福田人志さん ……6
●“つどい”は知恵の宝庫 (134)　福井県支部、本部電話相談員編
物忘れがある祖母は一人で留守番ができるでしょうか？ 7
●いきいき「家族の会」―まちでもむらでも
宮城県／広島県 ……8
●支部だよりにみる介護体験 (165)
長野県支部　中島明郎さん ……9
●地球家族パートⅡ ……10
●新しい入会案内パンフレット完成！ ……10
●老健局の風　厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室長補佐 井上 宏..11
●事務局ほっとコーナー／業務日誌 ……11
●会員さんからのお便り ……12–13
●社会保障情報
課税世帯でも補足給付が受けられる「特別減額措置」があります ..14
●鈴木森夫代表の忙中〝感〟あり (12) ……15
●編集委員の窓 ……15
●各地のつどい ……20

調査結果

２回のアンケート調査に回答した認知症の人と家族の概要は、図１、図２の通りです。

受診の理由となった主な傷病または症状は、発熱や骨折などで、受診した人の半数あまりは入院治療が必要な状況であったことが分かります（図３）。

受診において問題は「なかった」人は全体の63％でしたが、自由記述では、待ち時間での困りごとや検査の困難などがあることが明らかとなりました。診察の拒否や他院受診を勧められた人は少なかったですが、「医師から十分な説明を受けられなかった」「医療機関の職員から納得できない対応をされた」といった事例があり、一般の患者や家族であれば当然受けられるはずの対応が、受けられない状況が生じていると考えられました。

入院となった場合に、１回目の調査では、「問題があった」人は51％と「問題がなかった」人（49％）よりも多かったのですが、２回目の調査では逆転し、「問題がなかった」人の方が若干多くなりました。この結果から、一概に医療機関の対応が良くなったと評価することはできませんが、少なくとも、入院時の対応については徐々にですが、良くなりつつあると考えられます。

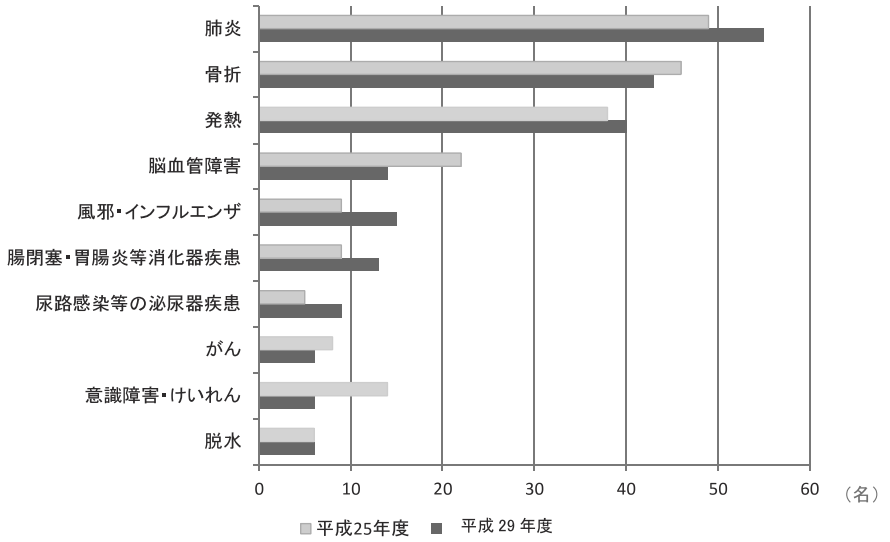
「問題があった」人の回答には、「家族の付き添いを求められた」が２回の調査とも最も多く、２番目に多かった項目は、１回目の調査では「身体拘束をされた」でしたが、２回目の調査では「入院前より身体機能が低下した」でした。これは身体拘束の選択肢の表現を「十分な説明なく、身体拘束をされた」と、説明なく身体拘束が行われた場合のみを「身体拘束をされた」としたためと考えられ、身体拘束をされる状況が減っているとはいえません。

この入院前よりも身体機能が低下したとの回答が２番目に多かったことは注目すべき結果です。入院前よりも身体機能が低下することにより、本人は入院前にできていたことが難しくなり、生活は変化します。また、本人にできなくなることが増えることで、家族の負担は増え、家族の暮らしも変化します。急な入院でも、認知症の人が入院前と同じ生活を維持できるように、治療やケアが行われるべきです。入院を拒否されることこそ少なくなっているものの、生活者として地域に戻って元の暮らしを続けることに支障が生じるのであれば、それは十分な対応を受けているとは言えません。

まとめ

認知症初期で、認知症特有の問題を抱えた人々の受診時での困難や問題を自由記述から見ると、長い待ち時間や説明の不足など、一見、認知症の人に特化した問題ではない記述が目立ちます。しかし、このような誰もが経験する受診時の困難は、認知症の人にとってより大きな混乱や不安を招き、付き添う家族も対応に困難を極めます。待つこと自体が難しい、検査など決められた時間・場所に行くことが難しい、説明に対して判断や決断を求められても答えることが難しい、というように、医療機関受診行動の一つひとつの場面で困難にぶつかり、本人も家族も疲弊してしまう実態があります。そうした場合に、待ち時間を病院の待合室以外で過ごせる工夫や、治療の説明を本人と家族それぞれに行う対応など、医療従事者の理解と歩み寄りによって、急な受診や入院という予測外の出来事でも、必要な治療やケアを受けるための本人や家族の余計なストレスは軽減されると思います。

このような認知症の人と家族が安心して受けることができる医療は、どんな人にも安心できる医療であることは言うまでもありません。



〈図３〉受診のきっかけとなった主な傷病または症状（複数回答）

報告書は「家族の会」ホームページ（http://www.alzheimer.or.jp/?page_id=3654）からダウンロードできます。

本人登場
私らしく仲間とともに
No.153

福田（ふくだ）　人志（ひとし）さん

55歳・長崎県支部

2016年９月号の「本人登場」に寄稿していただいた長崎県支部の福田人志さん。2016年に長崎で行われた第32回全国研究集会での発表後も、パートナーの中倉美智子さんと二人三脚で展開されている活動について紹介いただきました。　（編集委員　松本律子）

ただ普通に皆と共に生きて行く ～パートナーと二人三脚で～

2016年の全国研究集会から、いろんな人たちの力をいただいて、元気に過ごせるようになり、皆様には心より感謝しております。

今現在も相変わらず記憶力などで、てこずっていますが、大切な毎日を記録してきましたし、パートナーの中倉氏と共に子細に振り返ることができ、大切な思い出を守ってくれるので、自分の存在がわかり、パートナーが僕の脳の一部になってくれているので、感謝しかありません。

そんな二人で今も、壱行の歌「書の言葉とクーピー画」の作品づくりを続けておりますが、アイデアを出しあったり、野山へスケッチにいったり、体力が続かずに寝込んだりしても、完成したときはとっても嬉しくて感動してしまいます。

そうやってできた作品を、年に２回ほど佐世保市内で展示会を開いたり、講演先で参加者の皆さんに見ていただいています。作品の質問などを聞かれると、嬉しくて説明が長くなったりします。

３年目に入った認知症カフェ「峠の茶屋」

中倉氏と立ち上げた認知症カフェ「峠の茶屋」も、おかげさまで３年目を過ぎました。参加者の方たちにも作品を毎月見ていただいたり、じかに感想を言ってもらえるので、張り合いがあり、とても楽しい時間です。

武雄市の交流会にて

テーブルに着くと皆さんすぐに話の花が咲いてしまい、その中に加われず戸惑うこともしばしばですが、認知症ご本人も一緒になって話に夢中になったりして、お菓子もお茶もありますので、誰かのお誕生会みたいな雰囲気です。

町村の垣根を越えた「フレンズネットワーク壱〇八（いちまるはち）」を開設

現在、「峠の茶屋」は当事者の居場所づくりとして運営しておりますが、これからは県や市町村の垣根を越えた町ぐるみでの認知症の人の居場所づくりを実現しようと、「フレンズネットワーク壱〇八」を隣町に新たに開設しました。

行政の人と町民、当事者も一緒に運営に参加してタウンミーティングを基本とし、認知症の人と家族、高齢者、子どもたちが安心して住みやすい町づくりを４月より皆で始めました。

私たち当事者の居場所が小さな部屋から、大きな町へと変わることが、「ただ普通に皆と共に生きて行く」ことに繋がると思いますので、皆と一緒に楽しく無理せず頑張ります。

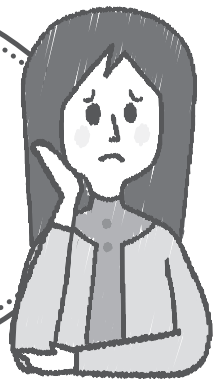
情報コーナー　本人交流の場
（詳細は各支部まで）

宮城◉7月5日・19日㈭10:30～15:00／翼のつどい→泉区南光台市民センター
山形◉7月19日㈭13:30～15:30／若年性認知症の人と家族の会→篠田総合病院
埼玉◉7月28日㈯11:00～14:30／若年のつどい・上尾→上尾市プラザ22
静岡◉7月10日㈫10:00～13:00／若年性のつどい→富士市フィランセ西館
愛知◉7月14日㈯13:30～16:00／「元気かい」→東海市しあわせ村
京都◉7月22日㈰13:30～15:30／若年のつどい→京都社会福祉会館
奈良◉7月28日㈯13:00～15:30／本人のつどい→奈良市南福祉センター
鳥取◉7月14日㈯11:00～15:00／西部にっこりの会→旧俣野小学校
広島◉7月28日㈯11:00～15:30／陽溜まりの会西部→廿日市市総合健康福祉センター（あいプラザ）
愛媛◉7月27日㈮13:00～15:00／若年性つどい→愛媛県看護研修センター
福岡◉7月21日㈯13:00～15:00／若年性認知症交流会→福岡市市民福祉プラザ
長崎◉7月10日㈫13:30～15:30／若年性認知症のつどい→させぼ市民活動交流プラザ

介護初心者の悩みに応える

“つどい”は知恵の宝庫 134

担当／福井県支部
協力／本部電話相談員



物忘れがある祖母は一人で留守番ができるでしょうか？

85歳の祖母と両親、弟と私の５人暮らしです。最近の祖母は、朝、何度も仏壇に参ったり、蛇口を閉め忘れるなど、物忘れが気になるようになりました。実は、いつも一緒にいる母（実娘）が１ヵ月後に手術のため入院する予定で、家族が仕事に出る日中、祖母が一人になるので心配しています。知人にデイサービスを勧められたものの、そこまでの段階ではないような気もします。婿養子の父は遠慮がちで何も言わず、弟は仕事で精一杯のようです。私も勤めながら母の代わりをする自信はありません。どんな方法が祖母には一番よいでしょうか？　（相談者　28歳孫娘）

お婆さまの考えを聞いてみましょう▶

昼間一人になることをお婆さまはどう思っているのか、お母さまと一緒に聞いてみませんか？お婆さまなりに何かお考えがあるかもしれませんよ。お婆さまが一人で昼食の準備などの家事をどこまでできるか、試してみるのもいいかもしれません。自分でなんでもできると言われても、無理して身体に負担がかからないよう、家族で見守りや声かけをすることも忘れないでくださいね。

顔馴染みの人に見守りをお願いしましょう▶

一家を切り盛りしてきたお母さまが入院するのは不安ですね。仕事をしながら、お母さまと同じことをしようとするのは無理があると思います。一人で頑張ろうとせず、助けてくれる人を見つけましょう。親戚の方やご近所にお婆さまの話し相手になってくださる方はいませんか？短時間でも訪問して様子を見てもらいましょう。

地域の資源を探しましょう▶

地域に配食サービスやサロンなどの介護保険以外の見守りサービスはありませんか？傾聴ボランティアが訪問してくれる地域もありますよ。地域包括支援センターや役所の高齢福祉課などの窓口で聞いてみましょう。また、有料の見守りサービスもあります。いろいろな人と会うことをお婆さまが楽しみにしてくれるといいですね。

家族で家事を分担できませんか▶

お婆さまはお母さま（娘）といつも一緒にいることで、安心して頼りきっていたのかもしれません。大事な娘が入院となれば、家事も娘の面会も自分の仕事と思って動かれ、役割ができて物忘れも軽減するかもしれません。買い物や夕食の準備などをお父さまや弟さんにも協力してもらえるよう、家事の分担を検討しましょう。

介護保険のサービス利用も考えてみてください▶

お婆さまの普段の様子を、もう少し詳しくお母さまから聞いてみましょう。お婆さまが一人で留守番をしなくてはいけない状況になるのを、一番不安に感じているのはお母さまかもしれません。物忘れも気になりますし、この機会に専門医に受診することも含め、デイサービスの利用に向けて家族で相談されてはいかがでしょう。

宮城県
支部

若年認知症のつどい「翼」〈思い出写真館　第1弾〉

若年認知症のつどい「翼」では３月１日、仙台市泉区南光台市民センターで〈思い出写真館〉を開催しました。参加者は本人10名、家族11名、ボランティア・世話人他９名の計30名です。皆さんに、それぞれ楽しかったこと、嬉しかったこと、お二人の思い出、ご家族の思い出など、とっておきの一枚の写真を持ち寄っていただき、コメントを交わしながら皆で鑑賞しました。

※郵便局勤めの研修時代。雪上車に乗せられとても寒かった。

※主人と母親の北海道旅行。やっぱり親子、とても似ています。

※結婚式をしていなかったので、一泊したホテルの貸衣装で記念写真を撮りました。

※娘家族と記念日に写真館で撮りました。

※クルーズでエーゲ海に行った時の写真。診断後４年の妻が落ち着けるように、旅行中、同じ部屋で過ごさせていただきました。

花嫁姿の写真には歓声があがり、皆さんの説明にも力が入ります。たくさんの思い出の中にご家族の輝きが垣間見られ、〈思い出写真館　第２弾〉の希望が多数ありました。

全国の「家族の会」支部会報から活動を紹介!!

いきいき「家族の会」まちでもむらでも

編集委員／内田妙子

陽溜まりの会東部 ひと足遅れの花見

４月７日、第66回「陽溜まりの会東部」が開催されました。小雨が降り、肌寒いほど底冷えのするあいにくのお天気でしたが、福山市や岡山・山口県からも参加があり、総勢13名の若年期認知症の人と家族は、３台の車に分乗して平成大学（福山市）へお花見に出かけました。今年は開花が早く葉桜となって、ひと足遅れになってしまいました。寒いので学生食堂へ直行し、うどん、カレーや定食など、各自好みのメニューを堪能し、体も温まりました。ちなみにこの学食の人気メニューは、女子は「おろしとんかつ定食」、男子は「焼肉定食」だそうです。

しだれ桜はまだ散り始めたばかりで、その前で記念撮影をしました。寒くて例年の散策はあきらめて帰路へつきました。

午後は、会員手作りのおはぎほど大きな桜餅を食べながら、おしゃべりです。その後、介護者は困っていることを相談しながら、皆で改善策を話し合いました。入院中の仲間はエールが欲しいということでしたので、皆さんで励ましのメッセージを付箋に書き、貼り付けて寄せ書きにしました。

広島県
支部

会員さんからのお便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしています！
〒602-8143 京都市上京区猪熊通丸太町下ル仲之町519番地 京都社会福祉会館内
〈「家族の会」編集委員会宛〉
FAX.075-811-8188
Eメール office@alzheimer.or.jp

ぽ～れぽ～れ４月号
「心に穴があいたよう」を読んで

喪失感に襲われて…

●長野県　Aさん　60歳代　男性

私も同じ気持ちです。３年半前に要介護４の認知症の父（90歳）、半年前に要介護４の母（91歳）を看取りました。「私と引きこもりの妹が亡くなれば我が家は終わりだ」と開き直って生きています。

父を看取った時、介護できたことへの満足感とともに、激しい喪失感に襲われ潰されそうになりました。いろいろ彷徨（さまよ）いましたが、喪失感についての相談窓口や語れる場はありませんでした。「家族の会」では無理なので、行政が中心になって喪失感について語り合える場を作ってほしいと思います。

私は、我が家がお世話になっているお寺さんの宗派も知りませんでしたが、父の看取りをご縁に仏教の勉強を始め、半年前からは心の支えを求めて、毎週の日曜礼拝にも通っています。

ぽ～れぽ～れ４月号
「私の独り言」（介護体験）を読んで

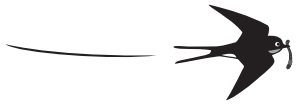
奥様の現状維持と改善に奮闘あれ

●奈良県　Bさん　70歳代　女性

『「薬の開発、治験」特効薬が開発されて治験に参加させてあげたい！』に共感します。重症となった我が夫（76歳）にも一縷の望みです。

『「しもやけ」冷え性の妻のしもやけを治してあげたい！』なんと心やさしい夫君でありましょう。

『「居場所」社会との接点となる妻の新しい居場所を見つけてあげたい！』今やわが夫には不可能でありますが、「～してあげたい」というお優しい思いやり深いご主人さま、奥さまの病に対して世の男性諸氏は、より優しくなれるものだと深く感じ入りました。涙がこみ上げる思いでありました。発症12年経ち、この年になり、未だに夫が恋しく、仕方のない愚かな妻であります。



ぽ～れぽ～れ４月号
「新・世界の情報」を読んで

介護で得たものと犠牲と…

●岐阜県　Cさん　60歳代　女性

家族の介護の経験で私の得たものは計り知れないほど大きく、人生の味わいを深くしてくれました。しかし、犠牲となった部分もかなりあることは確かです。米国アルツハイマー協会のレポートにあった、無報酬の介護者が費やす介護時間とその費用換算値には目がクギ付けになりました。

家族も施設にまるごと預けた場合の、国などが負担する公的費用とのバランスはどうなのか、all家庭介護の場合との平等性（介護離職による収入減も加えた）はどうなのか、もう少し詳しく知りたく思いました。個人的には、犠牲を絶対悪いとは思っていませんが。

※「看取りのつどい」を開催している支部を紹介します。詳しくは、開催支部にお問い合わせください。
〈宮城県支部、福島県支部、埼玉県支部、東京都支部、神奈川県支部、新潟県支部、京都府支部、奈良県支部、大分県支部〉

ぽ～れぽ～れ４月号
「高齢認知症患者のためのホスピスを」を読んで

いきついたのはホームホスピス

●兵庫県　Dさん　50歳代　女性

私は、自宅で介護していた母をこの２月に急性肺炎で亡くしました。最後まで在宅で介護したい思いもありながら、仕事との両立が難しくなりつつあり、施設探しもしていました。ですが、一般の施設の環境には納得がいかず、いきついたのがホームホスピスでした。これは民家を利用し、高齢者が自宅と同じ環境で死ぬまで普通に暮らしていくことを目指したものです。比較的新しく、まだ介護保険制度にのっておらず、施設などでの経験をお持ちの方が熱い思いで運営されています。制度に入っていないので、ケアマネさんもご存知ない方も少なくありません。残念ながら母は入居できませんでしたが、見学したホームホスピスはいずれも温かい「お家」でしたので、このような場所があることを多くの人に知っていただき、いずれは制度にのる（これが良いことかはわかりませんが）、あるいは社会的に認知されればと思っています。

自分が倒れないかと不安

●茨城県　Eさん　60歳代　男性

親一人、子一人の息子介護者です。要介護３で80歳代の母の介護の一方で、業務として障害年金の請求代理の仕事をしています。介護と業務と家事を行うために腐心しています。さらに、介護者たる自分が倒れたらと不安です。なお、親のことは自分が一番知っているとの思いでケアプランを自己作成しています。

現状を保つことが目標

●神奈川県　Fさん　60歳代　男性

50歳代の妻は、１年前に若年性アルツハイマー型認知症と診断されました。現在のところ、自宅での日常生活には不自由がない。家事（掃除、洗濯、食事の用意）及び身の回りのことはすべて一人でできる。ただし遠出はできず、自宅の周りであれば買い物にも出かけることができ、犬の散歩も行っている。進行を防ぐための治療は受けている。できるだけ長く現在の状態を保つことが目標です。

自宅にこもっていることが多く、他の人と接する機会が少ないのが問題だと思い、施設に行って（迎えが来る）、週３回運動する計画を立てているが、何かと理由をつけて週１回程度しか行っていないのが問題である。

眠れない日もありゆううつ

●東京都　Gさん　50歳代　女性

父は３年前に病死、70歳代の母は昨年末に脳血管性認知症と診断されましたが、まだ自分でいろいろできます。父母は自営業で、母も男勝りに働いていたので、急に忘れることが多くなり、性格もおとなしくなって戸惑っています。父の介護疲れかと思っていたのですが、それ以前から認知症になっていたのか定かではありません。私の家族と一緒に暮らしていますが、平日は私一人が母と一緒にいるのですが、私はうつ病が20歳代から治らずにいます。思うように目が届いていないのではないかと不安です。まだ施設には入っていませんが、私は入ってほしいです。母は「悪くなってから入る。お金がかかるし」と言っています。入居のきっかけがなくて悩んでいます。眠れない日もあり、ゆううつです。

※お名前はイニシャルではありません。
年齢は「50歳代」等で表記しています。